



双葉町ダルマ市の様子
(裏面に記事)

○HAMADOORI13 吉田学さんインタビュー

震災と原発事故後、福島県浜通り地方で市町村の枠を超えて復興に取り組む「HAMADOORI13 (ハマドオリサーティーン)」。今号では、その代表理事を務める吉田学さんにインタビューを行いました！

-HAMADOORI13 とは、どのような組織なのでしょう？

福島県浜通りの13市町村の若者が連携をしながら、浜通り地域全体を活性化することを目的として発足しました。以前は浜通り各地域の活動について、情報共有がなかなかできておらず、本当は協力したい、関係したいと思っている浜通りの方々の多くから、情報が届かないために時間だけが過ぎてしまう、と言う声を多く聞いてきました。

浜通り地方のHAMADOORI13メンバーは現在200人程度います。地域を思い、志をもって真剣に取り組んでいるたくさんの人たちの活動の受け皿となっていると自負しています。

-今後、どのような活動をお考えですか？

今は国や県主導の復興施策が多いですが、これからは、地元の私たちが率先して地域のために動けるようになること、その動きを継続していくことが重要だと考えています。そのためには、行政からの支援に頼るのではなく、地域が自立することが必要です。今、HAMADOORI13の活動の対象は、浜通りの枠を超えて広がってきていますが、今後は中通りや会津も含めた、他の地域の人たちも対象にしたコンテンツづくりや情報発信の媒体の準備を進めています。

-地域の将来に対して思うことがあれば教えてください。

今、この地域で起きていることで私たちが当たり前と思っていることも、本来は当たり前でないこともあります。多くの方が思いをもって浜通りを支援してくれているので、地域の人にはそれに気付くべきだし、それに応えていくべきです。

-最後に、吉田さん個人としてやりたいことは何ですか？

今は仕事が生活の全てで、家族とも離れて暮らしているので、まずは家族と一緒にいられる時間を作りたいですね(笑)



吉田学さん

一般社団法人
HAMADOORI13 代表理事
福島県大熊町出身

○双葉町ダルマ市 2023 及び大熊町・里がえりもちつき大会 2023 開催！

福島県双葉町のJR双葉駅前で、1月7～8日に双葉町ダルマ市が開催されました。ダルマ市は約300年も続く双葉町の伝統行事。原発事故発生後は町民有志が避難先のいわき市で毎年開催を繋いできました。そして今年、昨年8月に特定復興再生拠点区域の避難指示解除を受け、実に12年ぶりに地元での開催になりました。2日間で約3,200人ももの来場者があり、特に7日、重さ600キロのダルマを引き合う「巨大ダルマ引き」では、声援と歓声で大いに盛り上がりました。

また、福島県大熊町の役場前では、1月8日に里がえりもちつき大会が開催されました。町内のコミュニティ創出や交流人口拡大を目的に開催されたもちつき大会は今年で4回目。5つもの臼で、成人式の出席者も参加してつき上がったお餅はあんこやきな粉もち、汁もちとして振舞われ、約400人の参加者は、青空の下、舌づつみを打ちました。



大熊町里がえりもちつき大会の様子

○1月20日に知のネットワーク講演会を開催しました



主な登壇者（敬称・役職略）

西川 絵理（環境省）

伊藤 泰夫（福島イノベーション・コースト構想推進機構）

保高 徹生（産業技術総合研究所）

藤岡 俊之（双葉町）

浅野 雅己（浅野燃糸株式会社）

行木 美弥（中間貯蔵・環境安全事業株式会社）

大迫 政浩（国立環境研究所 / 環境放射能除染学会）

第19回環境放射能除染学会講演会「中間貯蔵の現在と福島県浜通りの復興の新たな展開」は、会場（日比谷コンベンションホール）とネット配信のハイブリッドで開催いたしました。

第一部では、環境省による基調講演のほか、福島イノベーション・コースト構想推進機構、産業技術総合研究所、双葉町、さらに、今年4月に双葉町に工場とショップをオープンする企業・浅野燃糸株式会社それぞれから、現状の報告が行われました。第二部のシンポジウムでは、報告内容を踏まえ、本格的な復興のフェーズに移行し、県外再生利用等を進めている状況について議論が行われました。

議論の中では、科学的な安全のアピールはもちろん心理的安心も大事であること、地域の交流人口を拡大させることで県外再生利用に対する理解も深まること、悲劇の町としてではなく様々な可能性のある場所としてプラスのイメージで情報発信していくことで交流人口を獲得していくことなどの意見が出されました。

詳細な内容については、左記QRコードからアクセスするホームページにまとめられておりますので、ぜひご覧ください。

1月20日の知のネットワークの動画・資料はコチラ

*ホームページ URL

https://www.jesconet.co.jp/int/erim/pla_45_00002.html



【お詫び】配信では接続障害のため、参加者が一部視聴できない状況になりご迷惑をおかけいたしました。

○情報センターだより

見学者アンケートのコメント

- 処理が進んでいることがよくわかりました。これほど進んでいるのは来なければわからなかったです。ありがとうございました。／福島県(白河市)40代
- 今まで他人事と思っていましたが、見学させていただき、皆が痛みをわかち合う必要があると思いました。／三重県70代
- 膨大な量の廃棄物を安全に処理する事。また、地域の理解も得て進めるという大変な事業を実施していることに感謝します。この内容をもっと多くの人を知るべきと思う。自分の周りの人間には伝えたいと思います。／愛知県50代
- 大学で対話、コミュニケーションを専門に研究していたので、本当に様々お伺いできてよかったです。土壌の再利用についても理解が深まりました。／東京都20代

情報センター見学のご案内

中間貯蔵工事情報センターは無料で見学できます。
(中間貯蔵施設の見学は事前の申込みが必要です。)
詳しくはホームページをご覧ください。



福島県双葉郡大熊町大字小入野字向畑 256

編集後記

前号から編集長をしている中島です。レターを通して、中貯事業の進捗や地域の復興状況、知のネットワークの取組をお届けしたいと思っています。どうぞ期待！！(中島)

浜通りに関わり始めてまだ9か月、地域の様々なことを皆さんに教えてほしいです。(沼田)

今回はインタビューに挑戦してみました。今後も続けていきたいと考えております。ご意見、ご感想お待ちしております。(小柳)